

令和6年3月定例会 一般質問 小西高吉議員

※代表質問・一般質問の会議録より抜粋し掲載しております。(各議員からの「質問」(問)に該当する部分を黄色マーキングしております。)

「観光政策と地域活性化について」

○小西高吉 改めましておはようございます。

ただいま議長のお許しをいただきましたので、私の一般質問をさせていただきます。

先に、能登半島地震で多くの方々がお亡くなりになり、本当に心からご冥福をお祈りいたします。そして、被災に遭われ避難生活を余儀なくされている皆様にお見舞い、そして早期の復興復旧を心から願います。

本当に、1月1日ということで、新しい年を迎えられて楽しい時間を過ごしておられた中で地震ということで、無念さもよりあっただろうなというように思います。本当に、今何が起こるか分からない、そんな時代なのかなということも改めて痛感しております。

今回の一般質問は、大項目1、観光政策と地域活性化について、2つ目として防災について、3つ目として中学校部活動地域移行についてという、この大項目3つを質問させていただきます。

まず初めに、観光の産業化、地域活性化の考え方について伺いをしたいと思いますが、まず初めに、これまで香芝市は観光政策をどのように進めてこられたのか。香芝市は観光資源があまりないというか、少ない状況ではございますが、香芝市としてどのように進めてこられたのかを1番目にお聞かせいただきます。

これで1回目の壇上からの質問とさせていただきます。答弁、よろしくお願いいたします。

○産業振興局長 本市の観光政策ですが、本市単独の政策としては、岳のぼりや香芝ウォーク、またどんづる峯の整備が挙げられます。

また、近隣市町との連携政策としては、葛城地域観光協議会における取組、また二上山美化促進協議会における取組等が挙げられます。

○小西高吉 今、ご報告いただきましたが。それでは、次に、香芝市としては観光の産業化を目指しているのか、その点、お聞かせいただけますか。

○産業振興局長 残念ながら、本市には主に観光客を対象とするホテル等の宿泊施設や土産物店がないことから、観光の経済効果が見込みにくい状況にございます。観光の産業化については、現状では目指しているとは言にくい状況でございます。

○小西高吉 それでは、観光の関係において、予算を組まれておられますが、どの程度効果を上げているのかが本当に分かりにくい状況、今でもそういう答弁ではございましたが。そこで、残念ながら、各種事業が単発イベントの域を出ず、産業と言えるまでの観光政策にな

っているとは本当に言い難い状況が続いていると思います。観光に関する予算の効果が上がっているのか、上げているのか、その点お聞かせいただけますか。

○産業振興局長 観光政策予算の実施効果、アウトカムとして、先ほど申しましたような数値が残念ながらないことから、予算の効果を、最も説得力のある金額で表すことができません。

ただ、毎年度実施する岳のぼりや香芝ウォークでは参加者の皆様から、また今年度を実施した二上山登山道のベンチの修繕であったり、名勝、遺跡への観光案内板を設置することで、登山者の方たちからお喜びの声をいただいております。今のところ、これを効果として考えております。

○小西高吉 登山される方にとっては喜んでいただいているというのもお話はいただいているんですが、それは観光と言えるのかというところがちょっと微妙なところなのかなと思うんですが。

現在、観光の重点施策としては、香芝市としてはどのように考えておられますか。

○産業振興局長 どんづる峯の整備を重点施策と考えております。どんづる峯は、観光資源としてでなく、奈良県の天然記念物に指定されるなど、美しい自然物としての価値や、第2次世界大戦中に造られた地下ごうなど、戦争遺産としての価値、また小学生の学習教材になることから、どんづる峯の整備を重点施策であると考えております。

○小西高吉 今、どんづる峯というお話もございましたが、前回というか、今までも申し上げているように、総合公園を一体として考えるべきじゃないのかなと思う。やはり、どんづる峯だけでというのは、なかなか観光として来ていただける方も少ないのかなと思うんで、総合公園、自然を残した中での、アスレチックをしたらどうだとか、釣堀にしたらどうだとかという提案もいろいろさせていただいていますが、そんなのを一つの地域として考えて、遊歩道等も整備していただいたらいいのかなというようにも思うんですが、今後の計画としてはどのようにお考えですか。

○産業振興局長 ご提案ありがとうございます。

観光施策として大きな計画は持ち合わせておりませんが、どんづる峯は、毎年、ふるさとまちづくり基金を活用して遊歩道の整備等を行ってございます。まずはこうした整備を継続したいと考えております。

また、令和6年度においては、老朽化しているあずまやの修繕を進めていきたいと考えております。

○小西高吉 いろいろ修繕も考えていると、それはどんづる峯に限ってのことなのかなとは思いますが。

次に、現在、香芝市の行政が考えている計画では、人を呼び込む、産業まで発展させるのは相当難しいというようにも感じます。行政だけでは本当に難しいように思うので、多くの行政を研究してみると、公民の連携により行政課題の解決に向けた組織づくりを行っている市町村もたくさんございます。

香芝市も公民の連携により行政課題の解決に向けた組織づくりを行う考えはございませんか。今まででもいろいろ提案もさせていただいておりますが、その点いかがですか。

○企画部長 お答えいたします。

連携や協働といった意味合いには、実に様々なスタイルがあるというふうに考えてございます。協働という観点では、各所管、実情に合わせた形で取り組んでいくべきものというふうに考えてございます。

また、しかし、現状におきましては、本市において組織だっ行っていく土壌の醸成にまでは至っていないというところでございまして、ただ、その中におきましても、本市では団体が提案し活動をサポートするといった仕組みとして、まちづくり提案活動団体支援事業を行っております。メニューといたしましては、市民からの提案というものだけではなく、スタートアップ事業や、今ご質問にある、まさに行政と手を携えて行政課題の解決の一助とする行政提案型という形もございまして、団体との協働によって行われる事業への後押しを行っているところでございます。

○小西高吉 組織とは言えないという答弁ですよね。

次、行政だけで行政課題を解決できると考えておられるのかどうか、今の答弁からすると考えておられないんだろうなと思うんですけれども、思っていないけれども行政だけで頑張るというような答弁かなと思うんですけれども、その点いかがですか。

○企画部長 決して香芝市の行政だけで行政課題を解決できるというふうには思っておりませんが、協働という形では、どの行政分野におきましてもしっかりと市民の方々と手を携えるべきであるというふうに考えてございます。

○小西高吉 それでは、どのように行政課題を解決していくのか、具体的にそういう考えがあればお教えいただけますか。

○企画部長 恐縮です、繰り返しになりますけれども、現在行っているまちづくり提案活動団体支援事業などを含めまして、例えば実行委員会方式によるイベントの実施など、団体との協働により行われる事業について、引き続き取り組み、成功体験を積み重ねていくことが第一歩であるというふうに考えております。

○小西高吉 また後ほど組織についてもお聞かせいただけますが。

次に、今、世界における観光政策の共通する考え方として、観光振興を地域住民の暮らしや産業が豊かにならなければ意味はないとおっしゃっております。特に、日本の政治は、これまで定住人口を増やして住民の満足度を高めるまちづくりと観光客を呼び込む観光政策とを切り離して議論してきた経緯がございます。今後、観光の産業化を進める上で、この考えではいけないと私は思います。

では、具体的に、観光を産業化するにはどうすればいいのかというところで、その一つがツーリズム。ツーリズムといってもたくさんあるので、この香芝市を分析、研究する中では、スポーツツーリズムを推し進めるのが一番だと思います。これも以前からも言っているんですけれども、あえて改めて言います。そして、スポーツツーリズムはスポーツをする、見

るという単体の経験から、これをイベントや大会の開催に絡めて、地域を巻き込んだ運営協力を取り付けることによる交流を促進する手法というように思うんですが。そこで、このスポーツツーリズムの考え方、香芝市においていかがでしょう。

○まなび推進局長 スポーツツーリズムと、香芝への交流人口の増加や地域活性化に向けて、スポーツのイベントは非常に効果があると私も考えております。

今年度は、Ｊリーガーのサッカー教室であったり、指定管理者と連携いたしまして「かしばスポーツweek」なる新しいイベントを開催いたしました。こういったことは、市民や市外からの参加もあって非常に効果があったと思っておりますけれども、市や指定管理者の事業以外にも、最近では施設の利用に関しましては、大きな大会の要望も増えていることが現実にあります。今後、大きなスポーツイベントに関しましては、誘致していく方向は、指定管理者とともに、市内の活性化も視野に入れまして、市民の還元や効果につきまして、指定管理者とともに検討していきたいと考えております。

○小西高吉 スポーツがこの香芝市においても大きな役割を担うということは認識していただいているということですね。それを、はっきりしたスポーツツーリズムというところまでの考えまではいかないというところで、しっかり検討、今までずっと何回も言っているんで、十分検討はいただいていると思いますが、ぜひお願いしておきます。

そして、もう一つ考えているのが、訪日教育旅行の誘致。簡単に言うと、外国の学校の子供たちの修学旅行先にこの香芝市を選んでもらえるように工夫と努力をすれば可能ではないかというように思っております。

訪日教育旅行では、学校交流等、日本生活文化体験を希望されることが多いです。日本中のどの自治体でも学校は絶対にあります。もちろん、この香芝市においても学校があります。また、香芝市でも日本の生活体験をしていただくことは可能で、現在は訪日教育旅行に選ばれる地域は圧倒的に長野県が多いんですが、この香芝市は、地理的に圧倒的に有利で、選んでいるもらえる可能性が高い場所だと思います。空港からも近いですし、高速道路、駅もございます。

その訪日教育旅行誘致を香芝市の政策として行えば、交流人口や関係人口は絶対に増えます。要するに、一見すると観光とは全く関係のないような地域資源を複数組み合わせることで、滞在型の体験や学びの仕組みを組み込める。そこに地域を巻き込んだ交流、これがイコール関係人口の創出につながることで経済効果として、それは形になると思います。

そこで、訪日教育旅行の誘致のお考え、いかがですか。

○まなび推進局長 現在、この訪日教育旅行につきましては、奈良県のほうの観光プロモーション課のほうの事業で行っておられます。コロナ禍のために一時中断をされておりましたけれども、今年度から再開したと聞いております。

現時点では、観光プロモーション課のほうからは、正式な調査は行われておりませんけれども、今後、県からの照会や調査が行われた場合には、事業内容を精査いたしまして、教育委員会として、学校現場で対応可能かどうかは検討してまいりたいと考えております。

○小西高吉 奈良県が主導を握っておられるというような感じですか。ちなみに、香芝市からそれはアプローチできることなんですか。それとも、県のほうから声がかかって香芝市として考えるという形になるのか。どういう体制になるんでしょうか。

○まなび推進局長 一般的に申しますと、県の事業に関しましては、一旦、紹介という形で希望を聴取されるということが一般的なパターンなんでございますけれども、現状、今、正式なそういう書式というものがございませんので、どういった形でこちらから手を挙げたらいいか、あるいは向こうから、県のほうから依頼があるのかどうかというところの判断は、今ちょっと難しい、分からないという状況でございます。

○小西高吉 ちなみに、手を挙げたいという意思はございますか。全く興味がないというのと、手を挙げてぜひという思いが少しでもあるのかどうか、前向きに考えていただけるのかどうか、この香芝市の教育委員会としていかがですか。

○まなび推進局長 まずは、学校現場がどのような形で対応できるか、それは学校現場のほうに確認をいたしまして、受入れができるかどうかの判断をしてから、教育委員会としてお声はかけていきたいと考えております。

○小西高吉 ぜひ前向きに考えていただきたいと思うのは、やはり外国の方と子供たちが接するというのも大きな経験、体験、今後にとっても本当にいいことだなというのも、僕も実感させていただいた部分もございますので、ぜひ前向きに考えていただきたいと思います。

それでは、今までいろんな提案もさせていただいております。私だけでなく各議員さんもいろんな提案をされておられますが、それはどのように検討していただいているのか、ちょっとお教えいただけますか。

○企画部長 検討の手法といたしましては、例えば検討会議といったような特別な機会を設けることはいたしておりませんが、スポーツや文化振興の所管はもとより、各施策の所管におきまして、事業実施の過程でこの地域活性化の観点を常に持つというところで創意工夫を行っているものと考えております。

○小西高吉 一応は検討もしていただいているということは、もちろん信じているんですけども、ちょっと見えてこないという部分が、前回もそんなお話もさせていただきましたが。

それでは、香芝市の、現在、市外から最も多く集まる施設はどこで、年間何名の方が市外から来られているのか、いかがですか。

○企画部長 ご質問いただいております来訪者の把握でございますけれども、そういった人数を定量的に把握する手法がございませんでして、データのほうは持ち合わせてございません。

○小西高吉 それでは、市外から来られた方々が、どこでお金を使われているのかとかというような分析はされているのかどうか。今、人数が分からないということで、到底されてないのかなと思ってしまいますが。ちなみに、それを分析する担当部署はどこになるんでしょうか。

うか、お教えいただけますか。

○企画部長 来訪者を含めた人数を定量的に把握する手法がございませんので、データがないということでございます。そして、分析する所管につきましても、現在は定めていないというところでございます。

○小西高吉 本当からいうと商工観光課になるのかなという思いはあるんですけども、今のところそういうところもないと、担当する部署もないという答弁だということですが。

市外から来られているのは確か、それは認識もされておられると思います。ただ、みすみすチャンスを逃していて、香芝市内で商売をされている方々にチャンスを与えようという考えがないのが不思議に思えるんです。せっかく来られているのを分かっているはずなんです。

そして、商工観光課に、名称が変わったと。これはもともと商工振興課だったのが商工観光課と、観光という文字も入れられたということからいうと、何か本当に名前が変わっただけで全然意味をなしてないのかなというように思います。結局、今の体制だと何も変わっていないように感じてしまいます。

公民の連携、今までのワンストップ組織の構築、市民を巻き込んだまちづくり協議会の設置、行政の組織横断型の体制づくり等を提案しておりますが、検討していただいていると信じていますが、それが見えてこない。市長の、市民が決めるという公約は、市民が決められる体制づくりをこの4年間で構築されたのかどうか、その点、市長にお伺いいたします。

○市長 まず、政策に対して市民の意見を取り入れる手法としては、市民アンケートであったりパブリックコメントなどを実施しているところでございます。また、ホームページ上においては、市長への提案という形で様々な意見を聴取しているところでございます。さらに、最近、そのページも少し変えまして、各課にいろいろな意見を言えるようにしているところでございます。

また、先ほど福森から話があったように、まちづくり提案活動団体支援金事業もございしますので、それが市民とともにできる事業かなと思っております。

さらに、今まででしたら、単発のイベントでしたら実行会形式で、例えば30周年であったりとか、あと冬彩であったりとかというふうな形で市民参加のものができていると思います。

先日もお話をさせていただきましたが、三宅町の施設「M i i M o」なんていうのは、比較的、市民が参加する形で一緒に作り上げていったものがございしますので、それは大いに参考にさせていただきたいと思っております。

○小西高吉 いろんな形で市民と一緒にされているという。ただ、市民が決めるというところに行っているのかどうか、ちょっとそこが分かりにくいんですが、割と市民が参加する形が取れてきているというのは、今の答弁からも、現状からも、ある程度分かせてはいただいておりますが。

次に、香芝市最大の交流人口、関係人口の場の香芝市総合体育館ですよね、もう香芝市で、

今、唯一大きい建物として、をスポーツ施設だけでなく、地域活性化となる拠点だと考えておられるのか。そのように考えておられるなら、関係部署にそういった視点での活用をするように指示されているのか、その点、市長にお伺いいたします。

○市長 まず、総合体育館を含む体育施設の設置目的のほうからお話をさせていただきます。それは香芝市体育施設条例第1条にあるように、市民のスポーツ及びレクリエーションの振興を図り、心身の健全な発達に寄与するためのものというふうになっております。このため、一義的には、市民の健康づくりや触れ合いの促進をする場であると考えております。スポーツを通じた市民の交流を促進する場であるとも考えております。

前から、小西議員を中心に、いろんな関係人口のお話をいただいていたと思います。今のお話は、この体育館自体をもっとそういう場にできないのかと。そのためには、例えば、先ほど津崎が話したように、大きなイベント等に対してもっと使えるようにするべきではないかということが、今、小西議員からのご提案かなというふうに思っております。そこに関しましては、例えば、大きなイベントをするのに体育館が取れないんじゃないかというふうなことなのかなと、今のお話とかで思いました。関係人口が増えるような大きなイベントする場合には、優先的に取れるような仕組みを考えるべきだというふうに、小西議員からのご提案と受け止め、しっかり考えさせていただきたいと思います。

○小西高吉 ぜひ、せっかく空調設備も整えられて、きれいに改装もされて、本当にいろんなイベントが打てるような状況。ただ、日々、市民の方が使っておられるというのもあるし、仮にそこを市民に犠牲になっていただいて、そこを使うというのなかなか難しいかもしれないですけども、ただ、新しい施設を造れるかというたら、これもなかなか難しい。モナミホールもどくなるのか、まだ目に見えてこないというところもありますので。ぜひ、前向きに考えていただいて、大きいイベントをされることによって、地域、この香芝市でお金を落としていただけるような体制づくりも同時に考えていただく、冬彩や、ふれあいフェスタ等、ああいうふうな感じでも、店に並んでいただくとか、出店いただくということも一つの方法にもなってくるのかなと思います。

なぜ、私がこれほどまでに観光や交流人口増を提案させていただくのは、香芝市の経済効果で市税が増える、私も人工芝生化や子供たちのために教育バウチャー制度なども提案させていただいております、多額の予算が必要になる、お金がかかること、当然、市のお金を増やす方法も提案を同時にしていけないといけないというふうに思っております。

市民の話や要望を聞かせていただき、代弁者として議会で発言しております。皆様の希望をかなえようとすると、お金が当然かかります。だから、観光や交流人口増による経済効果により市税が結果的に上がれば、市民のニーズにも応えられると思うので、提案させていただいております。

香芝市は、市税を上げる手段としてどのような政策を考えているのかお聞かせいただけますか。

○企画部長 市税を増やす手段といたしまして、政策の例といたしましてはふるさと納税

というものが挙げられます。

ふるさと納税につきましては、現在、香芝市商工会との協力の下、協力事業者及びその返礼品の拡大、またポータルサイトの拡充などを実施いたしております。

また、企業版ふるさと納税におきましては、PR動画の作成ですとか、寄附事業のメニュー化に取り組むとともに、本市と関係がある企業へのプッシュ型での情報発信などを行いまして、寄附額の増加に努めているところでございます。

消費の動向といたしましては、まさに物から事へというふうに移行している傾向がございます。香芝市への観光や、交流人口の増加による経済効果の考え方といたしましては、訪れてこられた方が、市内でいろいろな体験をしていただくなどの消費をすることによる税収の増加というのは考えられますけれども、今現時点では、なかなか効果的な策というのが見通せないという、そんな状況でございます。

○小西高吉 ふるさと納税、今、ご答弁ございましたが、スタートした当時は本当になかなか返礼品自体も集まらないような状況で、今は、特に市内での製造業とか市内で作っておられるところにも特に力を入れていただいて、返礼品も商工会のご協力の中、相当増えて、最初の頃に比べると、ふるさと納税、納税いただいているふるさと納税ですね、寄附をしていただける方も増えたというようには認識はしておるんですが。

基本的に、このふるさと納税って赤字、赤字と言うべきなのかどうかというのはちょっと微妙なんですけど、基本的にふるさと納税を比べたところで、赤字ですよ。市民の方が市外にふるさと納税されているほうが多いと。大体、年間3,000万円ぐらいの赤字なのかなとは思っているんですけども、その点、間違いないですか。

○企画部長 ふるさと納税の趣旨から、都市部から地方へ財源が移るということをそもそも目的としたものでございますので、私どものような、中途半端ではございますけれども、住民が多いこの都市型の市町村にとっては非常に分が悪い制度であるというふうに考えてございます。

赤字の幅につきましては、すみません、ちょっと今持ち合わせてはございませんけれども、おっしゃっていますように持ち出しが多いといえますか、いただくお金よりも出ていっているお金のほうが多い現状にございます。

○小西高吉 本来のふるさと納税の意味からいくと、ふるさとから外へ出て、自分のふるさとに寄附しようというのが本来の形だったのが、今は返礼品で選んでいるというのも正直なところだと思います。

そこからいくと、この香芝市に1回でも来ていただいたら、それはふるさと納税として、市外から来られたときに、ふるさと納税としてしようかなという一つの市に含まれるんじゃないかなと。ここに来たら、香芝市へ来られたら。やはり、来られなかったら、このところに、香芝市にしようかなというところまでいかないと思うんです。返礼品でどうしても選んでしまう。

そやから、そこからいうと、やはりこの香芝市に足を運んでいただくというようなことを

やっていかない限り、このふるさと納税を増やすというのはなかなか難しい。よほどの返礼品が出ない限りは、なかなか返礼品で選んでいただくというところに行かないのかなと。本当に気持ちでしようと思っていただくためには、この香芝市に1回でも足を運んでいただく、そういう努力が必要だというように改めて申し上げます。

以前も紹介させていただいたんですが、令和4年4月20日に観光庁が出された資料を見ると、観光交流人口増大の経済効果で、定住人口1人当たり年間消費額は130万円、年間です、定住ということは、住んでおられる方が1人当たり年間に消費される額は130万円というように観光庁が出されております。

昨年末に社人研が出されたデータを見ると、2050年の香芝市の人口予想は7万976人、約7万1,000人。今より約8,000人弱なんですけど、ちょっと計算しやすいように約8,000人が減ると、少ない人口になるというように出されております。

単純に、年間消費額130万円に8,000人をかけると、年間104億円の年間消費額が減るという計算になってきます。この減った分を、国の政策では観光や交流人口増加による経済効果で補おうと考えていると。香芝市は、そのあたり具体的にどのように考えておられるのか。将来に、私たちの努力が足りなかったために、将来の方に苦勞をかけることはやはり避けたいというように思います。例えば25年後、20年後、そこはあれなんですけど、市税の分析としてはどのようにお考えですか。

○財務局長 議員お尋ねの、20年後の分析と申しますと少々見込みが難しゅうございますので、10年後の分析になってしまいますが、香芝市総合計画における香芝市人口ビジョンにおける推計の詳細をベースにした試算では、今後は人口減少に伴う納税義務者の減少が予測されており、市税収において減収の要因の一つと考えております。

しかしながら、短期的に見た場合、賃上げによる税収増加を見込んでおりまして、現在の水準で、物価上昇が継続した場合、現状と同程度の税収額はおおむね維持可能であるというふうに考えております。

○小西高吉 割と早口だったのでちょっと分かりにくいのもあったんですが、そんな変化はない、その人口に合わせてのあれなんですけれども、変化はあまりないということだったんですが、トータルで簡単に説明いただけます。ちょっと、申し訳ない、早口でちょっと聞き取りにくかったの。

○財務局長 申し訳ございませんでした。人口減少というのは見込まれるわけですが、物価の上昇と賃上げとが逆に進む形で、それが相殺される形で、おおむね同額の税収は維持可能であると見込んでおるということでございます。

○小西高吉 市としては、いろんな要因があつて、税としてはあまり変化は、人口は減つても、その分上がる部分があるんで変化は少ないだろうということですよ。ただ、これも分からない部分もちろもあるんで、今後どうなるのかも分かりませんが。

一番は人口が減らないことが一番だと思いますけれども、人口が減らずに賃上げ等で上がったら結局プラスになるんですから、簡単に言えばそういうことですよ。

ただ、それもなかなか、人口が減少していくのは全国同じことだと思いますので。ただ、魅力さえあれば、この香芝市に移住というか、来ていただけるということもあろうかと思いますが、全てを見た中でいろいろ考えていただきたいというように思います。自主財源確保のためにしっかり考えていただきたいというように思います。

次に、昨年、物価高騰対策として9月、10月に、この2か月にわたって1人当たり2,500円分のギフトカードを送付されたと。もちろん、これは地域活性化にもつながるという点から聞かせていただくんですが、このギフトカードの苦情、課題等、ございますでしょうか。

○産業振興局長 ギフトカードに対しまして、市民の皆様からの苦情といたしましては、主に4点ございます。1つ目、どの店で使用できるのか分からない。2つ目、現金と併用して利用できる店とできない店がある。3つ目、現金と併用できる店でもカードの残額を伝えないといけない。4つ目、1回の支払いで1枚しか使えないといったところでございます。ご苦勞をおかけし、申し訳ございませんでした。

課題といたしましては、今後は利用方法等についてさらに丁寧にさせていただくことと、カード自体の事業者への周知をさらに強化していきたいと考えております。

○小西高吉 ですね。そういう苦情を私もたくさんいただきました。

なかなか、よかったという声というのは意外と皆さん言っていないんで、もちろん喜んでおられる方も多くおられると思うんですが。本当に使い勝手悪いわ、このカードという声が、もうしょっぱなから相当いただきました。現金と併用できないという店が多いというのと、先ほどもおられましたが、残高を自分で把握しとかないといけないと。一番は、お店の店員さんが嫌な顔をすると、このカードを使おうとすると。ただ、その店員さんがあんまりこのカードの意味が分からないというか、詳細なことが分かっておられないということもあったのかもしれないですが、使えるのに使えませんかと言われる店員さんがおられたり、相当、混乱を招いたと。せつかく、こうやって出していただいているのにもかかわらず、使い勝手が悪い、結局使っておられない方もおられるんじゃないのかなと。

先ほどの中にもありましたが、このカード、本当に、1枚しか使えない。5人おられたら、5人家族で5人分注文して、さあ支払うかなと思って5枚渡したら、1枚しか使えません、そこで、ほな1枚で、残りは現金で、いや現金と併用はできません、今さら返品ってできない状況です、結局、現金で払われたと、全てを、というところからいくと、何か喜んで使おうと思っても使えなかったという方が多くおられたと。十分、その苦情もいただいておられますので、もし次回こういうような形でされる場合は、本当にいろいろ考えていただきたいと思うんですが、これも2月29日でもう締切りという形で期限がございました。

このギフトカードの効果、ある程度出ているのかなと思うんですけれども、どのぐらい使われたのかなというのも気になりますし。その点、今分かる範囲でお教えいただけますか。

○産業振興局長 今回のギフトカードは、使用期限を令和6年2月末としましたので、期間内に利用いただくことで即効性のある消費喚起効果があつたと考えております。

また、1月末時点にはなるんですが、まだ2月末は出ておりません、1月末時点の執行状

況でございますが、カード発行額 1 億9,650万円のうち、利用総額は約 1 億5,470万円、執行率としては78.7%となっております。店舗別の利用金額を見ますと、上位10社のうち1位から3位を含む7社は市内の店舗でありますことから、市内の商工振興施策として一定の効果もあったのかなと考えておるところでございます。

○小西高吉 上位10社のうち7社が市内の店で使われたということで、効果はあったと、それはもうありがたいことですし。1月末現在、78.7%の使われた率からいくと、多分この2月29日で期限が切れますよということで、2月に相当の方が使われたと思うんで、相当増えんだろうとは思いますが、市としては効果はあったと。

ただ、今後の課題としては、もうちょっと徹底して店に使いやすくするような手だてを、今後する場合においてはしていただけるということで、ぜひお願いしておきます。

「防災について」

○小西高吉 次に、大項目2として、防災について。

自主防災組織の状況はということで、各自治会等での自主防災組織の状況ということで、1点目、お聞かせいただこうとは思ったんですが、昨日、木下議員のほうからも質問がございまして、47自治会のうち45自治会においてこういう自主防災会なりの組織をつくられているというご答弁もいただいているんですが、それ以外で、もしこの状況、プラス何か言っていたらいいようなことがあるんだったらお教えいただきたいと思いますが、いかがですか。

○危機管理監 昨日、ご答弁させていただきましたように、自主防災組織につきましては市内47自治会のうち45の自治会で組織していただいております。

その自主防災組織でございますけれども、自治会と自主防災組織が同じ組織、同じ役員様で構成されている、あるいは自治会の各種団体の1団体として自主防災組織が位置づけられている、そういったところの組織体制が多いということが本市の状況でございます。

○小西高吉 各自治会においては、多少の温度差というか違いはあるのかなというようにも思います。

役員さんが、その自治会の自主防災組織、防災会に、役員になったから役が当たると、2年に1回、3年に1回、役が替わったらまた入れ替わるというようなところもあって、このコロナ禍においては訓練もできなかったというところで、1回も訓練、役員になったけれども訓練もせずに終わったというところも多々あったように思います。

次に、この自主防災組織、防災会で実施されていることの把握、どういうことをされているのか、もし市のほうで把握されていることがあればお教えいただけますか。

○危機管理監 活動の把握についてでございますけれども、防災訓練のお手伝いや出前講座の要請でお伺いする際に把握させていただくことが中心となっておりますけれども、また自主防災組織によります備蓄品の整備や、防災士の資格をお取りになられた際に補助

金を交付させていただいておりますけれども、その交付金交付の手続の際など、また自治会の広報紙などを通じて活動内容を把握させていただいておるといような状況でございます。

○小西高吉 私もパンフレットをいただいたんです。これは白鳳台自治会、令和4年4月に発行されている、保存版ということでされていて、こういうときはこうなさいよというような、割と大きな字で書いておられます。

そんな中で、僕、ちょっと1点、避難行動手助けとして、青色リボン、これはどういうことかと詳しく聞かせていただくと、地震とかがあったときに避難されたと、家から避難した場合には、玄関、見えるところにこの青色リボンをくくりつけることによって、万が一、その後、家が潰れるようなことがあったとしても、この家はもう避難しましたよというのが一目で分かるように青色リボンを皆さんに配っていると、自治会の人に配っていると。なるほどなど。

当然、地震が起こって避難しなければならないような状況になると、パニックになって忘れるかも分からへんけれども、一軒でもそういうふうに目印をつけておいていただけたら、その家は避難されたというのが一目で分かるから、次の家へ捜索にも行けるということからいくと、いいことだなというように僕も思いました。

こういう、いろんな自治会でこういうふうなこともされていると思うんで、こういうこと、いいところはやはりみんなで共有して、市がそれこそ先頭を切ってリボンを配るとか、これがいいとなれば、そういうこともぜひしていただきたいと思うんですが、その点いかがですか、お考えとしては。

○危機管理監 そういうふうな参考となる事例につきましては、自主防災組織に防災訓練に行かせていただいた際に、周知とかをさせていただくというふうなことも検討させていただきたいと思います。

○小西高吉 次に、高齢の方が多い地域が単一で災害時に自主防災会で対応するのは難しく、市内の自主防災組織を組織化し、有事の際に連携して活動できるような体制づくりを行うことが必要だと考えるんですが、市のお考えは。

○危機管理監 今、ご指摘いただいた内容でございますけれども、例えば自治会の集合体として自治連合会があるように、自主防災組織の集まりといたしまして自主防災組織連合会、そういったものの結成についてのご質問かと存じます。

一部の自治会、自主防災組織におきましては、校区単位によります合同での防災訓練を行われたり、避難所の運営について話し合われておる先進的な事例がございます。自治連合会の定例会におきましてご紹介させていただいた経緯もございます。

今後も、こうした輪が広がるよう、市といたしましても共に取り組んでまいりたいと考えます。

○小西高吉 あと、消防団、自警団、自主防災組織等の災害に関する組織を香芝市が一つにまとめることが必要だと思うんですが、その点、市のお考えをお聞かせいただけますか。

○危機管理監 消防団につきましては、消防組織法にて規定されておる市の消防機関として、災害時には災害対策本部の中に組み込まれ、我々と共に、市として、自警団、自主防災組織など、地域の機関と連携いただくことになります。

平時におきましては、地元の要請に応じまして、防災訓練に消防団の方々もご参加いただいておりますけれども、本市といたしましては、消防団の皆様に感謝申し上げます。

○小西高吉 次なんですけれども、地域の避難所に入れない要支援者の受入れ体制、これも昨日、質問されておられましたので、あえてもうこの部分は飛ばさせていただきます。

あと、次に、能登半島地震が起こり、大地震の記憶が鮮明な今こそ、香芝市が主導して防災に関する仕組みづくりが必要だと考えるんですが、市のお考えをお聞かせいただけますか。

○危機管理監 本市といたしましては、公助に関わる部分の充実化を図っていく一方で、自助、共助がやはり最重要であると考えてございます。

地道に啓発させていただき、自助と共助が少しでも発展していくよう努力してまいり次第でございます。

○小西高吉 地震はいつ起こるか分からないんで、早急に対応いただけたらと思います。

次に、中項目2として、香芝市防災訓練実施予定はということで、訓練をしっかり行っている被災地の方々の命が助かっている事例が多いことから、香芝市が主導し、各関係機関を含めた市全体としての防災訓練の実施が必要と考えるのですが、市のお考えをお聞かせいただけますか。

○危機管理監 現時点におきまして、具体的な訓練の予定というものはございませんけれども、複数の自治会によります合同訓練や、校区単位での防災訓練なども今後検討してまいりたいと考えてございます。

○小西高吉 防災計画や防災訓練を通じて、市全体を掌握、コントロールできるようにすることが必要だと考えるのですが、香芝市のお考えをお聞かせいただけますか。

○危機管理監 災害時を想定いたしますと、様々な情報が氾濫し、その把握に苦慮することが考えられます。

市の災害対策本部におきましては、情報収集整理班がその中心を担うこととなりますけれども、まだまだ訓練不足であると考えております。

今後、この班につきましては限ったことではないんですけれども、各班の訓練を積み重ねてまいりたいと考えてございます。

○小西高吉 本当に、いつ起こってもおかしくないです、香芝市においても大地震。だから、相当急い中で計画していただきたいと。訓練も相当大事だと思いますので、よろしく願いしておきます。

「中学校部活動地域移行について」

○小西高吉 次に、大項目3つ目として、中学校部活動地域移行についてということで、これは12月議会でも質問させていただいております。

ただ、先月2月7日に県のほうから、休日の教員指導部活廃止という大々的な報道をされております。これを受けて、やはり市民の方は相当、心配もされております。そんな中ですので、あえて再度聞かせていただきますが、2026年度、令和8年度から教員の指導による休日の学校部活動を廃止する方針を発表されました。この香芝市においての、これを受けての
お考え。

もともと令和8年からそのように進めると。一番最初、この地域移行が国のほうから出されたときは令和5年からというようなスタートだったとは思いますが、それが延びて令和8年からというようになっておりますが。実際、これは初めてだと思うんです、県のほうがこうやってあえて大きく廃止と、休日の教員による部活動は廃止だということを大きく発表されたのは初めてだと思うんですけれども、その点、市のほうのお考えをお聞かせいただけますか。

○まなび推進局長 県の方針を受けまして、本市におきましても令和8年度をめどに地域クラブ活動への移行を目指してまいります。

昨年度から行っております実践研究での課題や、香芝市地域クラブ活動推進会議においていただいております意見も踏まえまして、香芝市における円滑な地域移行が実現するべく、具体的な方針を今後検討して、作成していくことにしていこうとしているところでございます。

○小西高吉 もともと、令和8年度からスタートできるようにというか、そういう方向で動いていただいているのはもちろん分かるんですけれども、なかなか前に進んでいるように見えない。目に見えないですね、この計画も、12月議会でも言いましたけれども、ほかやったら計画も立て、方針ですか、計画も出されているということも紹介させていただきました。

ちなみに、思い出したんですけれども、市外、ほかの市町村の状況って把握されたんですか。

○まなび推進局長 県下の11市を調べさせていただきましたところ、どちらも県の方針を踏まえまして、一応、令和8年度に移行することを目指す、こちらを表明しているのが6市、具体的な予定は今ないというところが3市、それに関しての回答が今ないというところが2市でございました。

○小西高吉 取りあえず令和8年度からを目指して香芝市も進んでいると。これ、もしできなかったらどうするんですか。移行できる状態に持っていけなかったら、どのようにされるんですか。考えておられない、まだ計画も立てておられないというところも何市かあるとおっしゃいましたけれども、そういうところってどうされようとされているんですか。もし、これができなかつたら、休日は一切部活動はなくなるという認識になってしまいますよね、

これ。なりますよね。これ、県のほうが、県の教育委員会がそういうふうに言っているということは。ですよね。働き方改革として教員さんにはさせないと、廃止だとおっしゃっている、イコール、対応が取れなかったら休日は一切部活動はしない、できないという状況になるんですか。その点をお聞かせいただけますか。

○まなび推進局長 現在、分かっていることといえば、学校での部活動の活動は、平日のみということだけは決まっております。休日の部活動のやり方をどうするか、これは市町村で考えていかないといけないんですけれども、現在はまだ方針のほうもしっかりと固まっておりますけれども、地域のクラブ活動ができるような体制というのは令和8年までに考えていく必要があるというふうには考えております。

○小西高吉 言っても、これは令和8年度からですから、結局、令和7年度中にはもう決定を打たないといけないというですよね。ということは、もう令和6年度に入る。もう2年しかないですよ。何か、本当にできるのかなというのが不安で仕方ない。もちろん、保護者の方、生徒さんらもちろんだと思えるんですけれども。

そんな不安から行くと、このコーディネーターって前回にも提案させていただいているんですけれども、コーディネーターを配置したほうがいいんじゃないですか。これは多分、国費が100%になったというように認識しているんですけれども。もともとは、国3分の1、県3分の1、市が3分の1という形だったと思うんですけれども、100%になったと思っているんですけれども、それは別としても、**コーディネーターを置くべきだと考えるんですが、その点いかがですか。**

○まなび推進局長 現在のところ、地域クラブ活動を受け入れていただく団体そのものの自体が、今まだ確定はしておりません。

そんな中で、そういった関係団体との連絡調整というのは、現在は教育委員会事務局が学校と関係団体との連絡調整を行っておりますので、今のところはすぐにコーディネーターを置くということは考えておりません。

○小西高吉 もちろん、コーディネーターとは、関係者の連絡調整、指導助言を行う運営団体です、受皿と、中学校との連絡調整、安全管理、指導者の派遣、管理等を行うと、これがコーディネーターさんのこの地域移行に対しての、コーディネーターはこういう役目だということもうたわれております。

ただ、早く、これをするんでしたら早くしないと、コーディネーターさんもおられなくなりますよ、一斉に動きますから。ですよね、これ、奈良県だけで言っても。これは令和8年に向けて全ての自治体、動かざるを得ないんです。そこからいくと、これはどうなんですか、本当に設置する考えはないのか、今後設置しなければならないと思っておられるのか、その点をお聞かせいただけますか。

○まなび推進局長 現時点では、やはり関係団体というところの確定もしておらない状態でございますので、学校現場をしっかりと管理しております教育委員会事務局が一旦は連絡調整を行うことが理想だと、今、考えております。

コーディネーターにつきましては、組織自体がはっきりとした段階でどうするかは検討していきたいと思っております。

○小西高吉 ぜひ、しっかり考えていただきたいと思います。

結構、子供たちに迷惑がかかるんで、そこは避けてもらいたいと12月議会でも申ししております。ぜひ、お願いしたいというように思います。

あと、教育委員会だけでは相当しんどいと思うんで、あえていろんな提案をさせていただいております。それも前にも申ししております。やはり、市全体として考えていかなければならないんじゃないですか。だから横断型の組織をつくるべきじゃないですかということも申し上げております。いろんな提案をさせていただいておりますので、ぜひお願いしたいと思います。

次に、この報道はもちろんですけれども、やはり中学校での地域移行、部活動がなくなるんじゃないのかということで、相当、不安と心配されております。生徒、もちろん保護者の方も。その方々への説明、周知については、前回聞いてもまだ分からないようなことをおっしゃられてましたけれども、もういいかげんその計画を立てておられると思いますので、その点をお聞かせいただけますか。

○まなび推進局長 生徒や保護者の方への説明につきましては、令和6年度の前半のうちに、生徒や保護者に向けて、令和8年度に移行を目指すことにつきまして周知を行うように今考えておるところでございます。

○小西高吉 ぜひ、教育委員会が責任持ってやっていただけるとおっしゃるなら、説明もやはり教育委員会主導でやらないと。

ある市内の中学校でも、校長先生が早くいろんな意味でお知らせしないといけないということで、ちょっと違った方向で説明されたために、その中学校ではえらい混乱してしまっている。あえて、また訂正文を出されたというのも聞かせていただいているんですけれども。しっかり、やはり分かった人が説明されないと。

もちろん、生徒数が減っているから先生の数も減る。だから、部活動が、担当する先生がおられなくなるので、この部活動は難しくなりますというのは分かるんですけれども、そこへプラス、この地域移行のことも含んでしまうと、生徒、保護者からすると、もう訳が分からない。なくなるねやということも出てくるし、将来なくなるんやったら違う部活に入っていたほうがいいのかとか、いろいろやはり考えておられると。

この令和8年からスタートということでいくと、この4月に1年になられる方が3年のときに移行するんです、途中で。ということですよ。そやから、そこから行くと相当混乱を招くんじゃないのかなという思いもあります。

それから、教員の方々の兼業もできるようになったというようにも聞かせていただいておりますし、それはもう長の判断だとは思いますが。そこから行くと、早く動かないとという思いもあるし、先生方には異動というのもあるんで、そこはなかなか難しいかもしれないんですけれども、いろんな意味で、本当に、しっかり考えてしっかり説明していただか

ないと混乱を招くということ、既に招いているということをしっかりご理解いただきたい
と思いますので、ぜひよろしくお願いして終わらせていただきます。ありがとうございました。